

令和元年度第8回伊予市行政評価委員会 会議録

日 時：令和2年2月19日（水）18時30分～20時45分

場 所：伊予市庁3階庁議室

出席者：妹尾克敏委員長、西田和眞副委員長、倉澤生雄委員、小倉揮代委員、篠崎加代委員、木本敦委員

事務局：未来づくり戦略室（空岡・岡井・向井）

1 開会

会議の成立を確認した。

2 議事

(1) 【報告】平成30年度事務事業・施策評価最終結果について

(事務局)

まず、資料「平成30年度事務事業における行政評価結果報告書」をご覧ください。これは、全585事務事業の評価結果を一覧にしたものである。

次に、資料「別冊 令和元年度外部評価結果」をご覧ください。これは、既に確認いただいているものだが、本委員会でも審議した外部評価結果を取りまとめたものである。

次に、資料「平成30年度施策評価」をご覧ください。これは、第2次伊予市総合計画で定められた基本方針に基づく24施策ごとに、成果指標、進捗及び結果分析を行ったものである。

以上の3種の資料を最終結果として議会へ報告したところ、3人の議員から次のような意見をいただいた。事務局の回答についても合わせて報告させていただく。

—議会報告内容—

(A議員)

そもそも、外部評価というのは、低評価の事務事業に対し重点的に行うものだと思う。これまでもCやD判定のものが多かったのではないか。今回の資料を見ると、27の事務事業を評価しているが、SやA判定も含まれているようだ。行政評価委員会選定の事業もあることからだと思うが、私は、B判定程度、市職員が迷っている、判断しかねているというような事務事業を評価することが本筋だと思う。

(未来づくり戦略室長)

27件のうち、13件が行政評価委員会選定の事務事業である。御指摘のとおり低評価への対応も求められていると考えている。行政評価を継続する中で、事業の取捨選択も進んできており、廃止する事業そのものが減ってきていることから、外部評価へ付す事務事業も減ってきている傾向にある。なお、意見については、行政評価

委員会へ伝達する。

(B議員)

今年度は、全ての評価委員会を傍聴し、女性の公募委員2人が非常に熱心に質疑を行う姿に、私も勉強になったという思いである。

行政評価運用事業について、「このような取組をしているのは伊予市以外知らない、自信を持ってトップランナーという認識を周知徹底するべき」という評価をしている。私自身、昨年、初めて行政評価制度を知ったわけだが、この仕組みは誇るべきもののようだ。それなら、もっとアピールすべきだと思う。個人的な意見になるが、市民はこのシートも見ても理解しづらいと思う。もっと単純に、「あなたは、伊予市の事業の中で、どの事業が一番良いか」、「これは必要ない」といった、簡単なアンケート方式で発信してもいいと思う。

施策評価に市民満足度の指標を取り入れていることは、評価したいと思う。

(未来づくり戦略室長)

市民の「見やすさ」という部分は、今後も追及していきたい。アンケート方式という提案については、行政評価委員会へ伝達する。

(C議員)

一般的に、継続事業については、廃止や改善といった評価がしっくりくると思う。今回、小中学校のエアコン設置事業については、設置が滞りなくできたということで、SやA判定をしているが、最終判断は事業の休止・廃止となっている。設置事業そのものが完了するため、休止・廃止であるということは理解できるが、見方によっては、行政評価委員会に諮った結果、この事業が廃止になったとも見えてしまう。単年度で完了する事業の評価をどう捉えるか、事情を知らない市民からすると、SやA判定なのに廃止してしまうのかという誤解が生じるのではないかと思う。

(未来づくり戦略室長)

御指摘のとおり、誤解のないように今後、努めてまいりたい。

—以上— 議会への報告内容である。

この質疑の後、受理されたことを合わせて報告する。

(委員長)

C議員の意見は、要するに、事業が終了した際に、休止や廃止という表現ではなく、例えば、事業の終了というように、他の表現を用いてはということか。

(事務局)

お見込みのとおりである。

(委員長)

意見は理解できるが、基準が難しい。

(委員)

見やすくという指摘は理解できるが、具体的にどのようにすればいいかという方向性についての意見も合わせていただければ良かった。

(委員長)

評価しているのにアンケート形式というのも理解しかねるところがある。

(委員)

見せ方については、長らく携わると分かってくるが、新しい委員からすると、資料をどう見たらいいか分からなかったというのは率直な感想だと思う。お二人の意見にヒントがあるかもしれない。

(委員)

最初に資料を見たとき、本当に大変だと感じた。現在でも誰かに説明しろと言われると自信はない。市職員も評価シートを理解しているのかということも疑問だ。具体的には言えないが、他の自治体ではどのような資料を用意しているのかは気になる。

(委員)

正直なところ、まだまだ理解するのは難しいと感じている。市民の中にも興味がある人もいれば、ない人もいる。理解してもらうということは大切だが、市民全員が同じように理解する必要はないのではないか。

(委員長)

説得力のある意見だ。

(委員)

いくつかの事例を知っているが、おおむね、同じような資料構成である。そうやってしかるべきものだと思う。資料を見て分からないと感じるのは、評価シートの書き方の問題だと考えている。我々の指摘によって、職員が書き方を見直してもらえらるなら、それは意味のあることだと思う。

(2) 令和2年度外部評価（令和元年度事務事業）事業選定について

(事務局)

昨年度にならい、令和2年度外部評価に付す事務事業の一部を本委員会にて選定をしたい。あらかじめ、各担当課に、各施策を構成する事務事業の中から、その施策を推進する上で重要と判断する事務事業をピックアップしてもらっている。その中で過去4年間の外部評価実績や委員各位の考えを加味し選定することを基本としたい。手法としては、それぞれ順番に意見をいただき、重複するところもあるだろうが、集約し、取りまとめたいと考えている。

なお、今年度の委員会の中で、1年間の外部評価件数は、今年度の27件程度が集中して、無理なく審議できるのではないかという意見をいただいている。来年度の外部評価に付す事務事業は、本日選定したものと、二次判定により付されるものを加えたものになるが、今年度と同数程度となるよう事務局にて調整を行いたい。

(委員)

次の4つの事務事業を選定したい。

- 2-① 病児・病後児保育事業
- 2-③ (介保) 一般介護予防事業
- 3-④ 社会体育事業運営事業
- 3-⑤ 図書館・文化ホール等建設事業

(委員)

事務局より提案のあった、重要度と満足度の順位のギャップから選択するのは自然な流れだろう。また、事業費の大きさも一つの目安だ。しかしながら、予算の充当が国と県で3/4を占めるような事業は、あまり弾力性がないということから、評価する意味も薄いように思う。本資料からはそこまでは読み取れないが、それらを踏まえ、次の4つの事務事業を選定したい。

- 2-③ (介保) 一般介護予防事業
- 2-④ 意志疎通支援事業
- 2-④ 隣保館管理運営事業
- 4-④ ふたみシーサイド公園管理運営事業

(委員)

市民満足度調査の回答率からすると、ある程度姿が見えてくると思うが、調査対象ではなく、回答された方たちの、性別、年齢バランスに偏りが無いかというところは気になる。高齢者の回答が多ければ、高齢者施策の重要度が上がってきて、若者向けの施策はどうなのかということになってしまわないかという危惧はあるが、結果として数字が出ているので、取り上げないわけにもいかないだろう。また、予算規模、現在、問題になっているコロナウィルスの対応等も念頭に入れ、次の4つの事務事業を選定したい。

- 1-③ マイナンバー事務(前回評価時に比べ、次の段階に進んでいけば)
- 1-⑤ (水道)耐震化事業
- 1-⑦ 防疫等対策事業(中身を確認し、評価すべき事業であれば)
- 2-② 救急医療対策事業

(委員)

次の3つの事務事業を選定したい。

- 1-⑥ 漁港施設機能強化事業
- 4-① 農村環境保全向上活動支援事業
- 4-③ 商工振興助成事業

(委員)

予算額の大きさ、生活に密着という観点から、次の5つの事務事業を選定したい。

- 1-⑦ ごみ処理事業
- 3-③ 文化交流センター事業
- 4-③ 商工振興助成事業
- 4-⑤ 地域ブランド強化事業

5-① 地域活力創造事業

(委員長)

まずは、事業費の大きさという尺度で考えてみた。それと、今後の推移を注視すべき事務事業という観点から次の7つの事務事業を選定したい。

- 1-① 都市再生整備計画事業
- 1-⑤ (公下) 社会資本整備総合交付金事業
- 1-⑤ 浄化槽設置整備事業
- 1-⑥ 漁港施設機能強化事業
- 1-⑦ ごみ処理事業
- 3-⑤ 図書館・文化ホール等建設事業
- 4-④ ふたみシーサイド公園管理運営事業

(事務局)

委員各位の発言をまとめた。読み上げるので確認をお願いしたい。

- 1-① 都市再生整備計画事業
- 1-③ マイナンバー事務(前回評価時に比べ、次の段階に進んでいれば)
- 1-⑤ (公下) 社会資本整備総合交付金事業
- 1-⑤ 浄化槽設置整備事業
- 1-⑤ (水道) 耐震化事業
- 1-⑥ 漁港施設機能強化事業
- 1-⑦ 防疫等対策事業(中身を確認し、評価すべき事業であれば)
- 1-⑦ ごみ処理事業
- 2-① 病児・病後児保育事業
- 2-② 救急医療対策事業
- 2-③ (介保) 一般介護予防事業
- 2-④ 意志疎通支援事業
- 2-④ 隣保館管理運営事業
- 3-③ 文化交流センター事業
- 3-④ 社会体育事業運営事業
- 3-⑤ 図書館・文化ホール等建設事業
- 4-① 農村環境保全向上活動支援事業
- 4-③ 商工振興助成事業
- 4-④ ふたみシーサイド公園管理運営事業
- 4-⑤ 地域ブランド強化事業
- 5-① 地域活力創造事業

以上21事業を委員会として選定することとする。

なお、結果をとりまとめ、本日の会議録と共に委員各位へ郵送させていただく。

(3) その他

○日程調整について

- ・令和2年度第1回伊予市行政評価委員会の開催時期は7月上旬を予定。
- ・5月頃、メール等にて日程調整の連絡をさせていただく。

(未来づくり戦略室長)

本日、第8回目の委員会が今年度最後となった。新しい委員構成でスタートし、議論を深めてきた。来年度においても、所管部長の出席、傍聴等、これまでの形態を踏襲し、運用してまいりたい。

市議会議員にも熱心に傍聴いただいた。議員活動において、行政評価委員会の取組についても一部言及されたようだ。

本委員会の意見は、市全体で共有をしていくものであると同時に、本委員会で市職員が自分たちの仕事をしっかり説明することは、とても良い機会となっている。

来年度は任期2年目ということになる。様々な視点からどんどん御指摘いただきたい。引き続き、自信を持って取り組んでまいりたいと考えているので、来年度もぜひ御協力いただきたい。